

## 宇都宮市立横川中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する質問の肯定的回答の割合は、すべての項目で県を上回っている。「家で自分で計画を立てて勉強をしている」が76.7%、「家で学校の宿題をしている」が95.9%、「予習をしている」が61.6%、「復習をしている」が73.9%であった。今後も家庭と連携しながら家庭学習の習慣を定着させ、学力向上につなげていきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答は87.7%と県より5.9ポイント高く、「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の肯定的回答は74.0%で県を9.4ポイント上回っている。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」は85.0%で県の平均よりも8.9ポイント高いことから、学習に対する前向きな姿勢がうかがえる。今後も学ぶ喜びを味わえるような授業の充実を図り、学習意欲の向上に努めていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答の割合は82.2%で県より6.6ポイント高く、「授業では自分の考えを発表する機会があたえられている」は90.4%、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」は87.6%、「授業を集中して受けている」は91.7%、「クラスは発言しやすい雰囲気である」は91.8%といずれも肯定的回答の割合が8割を超えている。学校生活において、能動的な態度で友達と互いに関わり合っていることがうかがえる。今後も児童相互の良好な人間関係を構築し、学び合うことのできる学年・学級を作っていきたい。

○「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答の割合は91.8%で県を上回り、「自分も持っている能力を十分に発揮したい」が94.5%、「将来の夢や目標をもっている」が94.5%で、いずれも肯定的回答の割合が9割を超え、いずれも県の平均を上回っている。今後も、児童の自己肯定感を高め、安定した健全な気持ちで過ごしていくことができるよう、褒めて伸ばす指導に努めていきたい。

○「家の人と学校での出来事について話をしている」の肯定的回答の割合は91.8%で県より6.4ポイント上回り、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」は90.5%で県より5.0ポイント高く、「家の人と学習について話をしている」は84.9%で県より6.2ポイント高いことから、安心して過ごせる温かい家庭による支えを基盤とし、自己肯定感を十分に抱ける環境にある児童が多いことがわかる。

○「毎日、朝食を食べている」の肯定的回答は100%であり、「早寝早起きを心がけている」の肯定的割合は85.0%と県を7.6ポイント上回っている。各家庭での食生活の充実や健康への意識が高いことがうかがえる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定的回答の割合は76.7%で、県より16.5ポイント高いことから、「書くこと」への苦手意識がうかがえる。国語の授業での指導を中心に、他教科でも文章で表現することへの抵抗感を減らしていけるよう工夫したい。

●「学校のきまりを守っている」の肯定的回答の割合が91.8%であり、県の平均を2.8ポイントわずかに下回っていることから、道徳の授業や学級活動を中心として規範意識を高められるよう心にとくに響く指導を工夫していきたい。

●「教科の授業の内容はよくわかりますか」の質問に対して、どの教科も、肯定的回答がいずれも9割を超え県よりも高い。反面、「教科の学習は好きですか」の質問に対する肯定的回答の割合は、算数と理科は県の平均を上回っているがほぼ同じであるが、国語は58.9%で県を6.5ポイント下回り、社会は57.6%で県を3.8ポイント下回っていることから、授業の工夫・改善に努め、魅力ある授業や指導を展開していきたい。

## 宇都宮市立横川中央小学校（第4・5学年共通）

### 学力向上に向けた学校全体での取組

#### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習や自主学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初め4月に、家庭学習に関する保護者あて通知を出し、保護者と連携をとりながら、家庭学習や自主学習への協力を呼び掛け、共通理解を図ることで、基礎・基本の着実な定着や確かな学力向上に向けた指導・支援を行っている。	4・5年生ともに、「家で学校の宿題をしている」の「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた児童の割合は、4年生が98.9%、5年生が95.9%であった。また、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた児童の割合は、4年生は70.0%、5年生は76.7%であった。
授業におけるめあてとまとめ・振り返りの充実	授業の最初に本時のめあて、最後にめあてを意識したまとめを行い、板書して確認したり、児童一人一人が本時の学習の流れや内容を振り返る時間を設けたりしている。	「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた児童の割合は、4年生は86.7%で県より12.2ポイント高い。5年生は78.1%で県より2.7ポイント低い。
話し合い活動の充実	本校の研究主題「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成～ICTを活用して、言語活動「書くこと」の充実を目指す～」のもと、ICTの効果的な活用を模索しながら、ペアや小グループ、学級全体での話し合い活動で、各学年・各クラスの実態に応じた対話や話し合い活動を行うようにする。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の「はい」「どちらかといえば、はい」を合わせた児童の割合は、4年生は67.8%で県よりも5.8ポイント低く、5年生は82.2%で県よりも6.6ポイント高くなっている。

#### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の質問に対して、「はい、または、どちらかといえば、はい」と答えた児童の割合は、5年生は76.7%で県に比べて16.5ポイント上回っている。4年生は60.0%で県に比べて1.8ポイント下回っている。また、「書くこと」の5年生の平均正答率は62.0%で県よりも9.2ポイント上回っている。4年生の平均正答率は53.3%で、県より10.9ポイント下回っている。	国語科をはじめ、各教科・領域の学習の中で、自分の意見や考えを文章にまとめる機会を計画的に設ける。	国語科の学習を中心に、学年の発達段階に応じて、各教科・領域の学習の中で、書く内容やテーマ、字数などを決めて、自分の意見や考えを文章にまとめる機会を計画的に設けるような指導・支援をすることで、書くことへの苦手意識や抵抗感をなくすよう努めるとともに、思考力・判断力・表現力のさらなる育成を目指す。